

## 新たな麦流通に対応した麦作振興の特徴

樽本祐助・笹倉修司  
（九州沖縄農業研究センター）

Yusuke Tarumoto and Shuji Sasakura :  
Promotion of Bred Wheat and Barley in Kyushu Region

## 1. はじめに

1998年に策定された「新たな麦政策大綱」は麦の民間流通の促進を目的としており、麦作産地では実需のニーズに対応し新たな品種を導入するなどの対応が重要になっている。そこで、九州における実需者との連携による麦作の振興方策を検討する。

## 2. 味噌原料用裸麦への取り組み

宇佐地域では1994年に、宇佐市農協（現在のJA大分宇佐）と大分みそ協業組合（以下、大分みそ）の契約によるイチバンボシの供給体制を構築した。また、小麦にくらべてイチバンボシの収益性が低いため、それを補填するため大分みそが40円/kgの生産奨励金を出し、農家への普及を推進した。

これらの普及制度のもとで、2000年における契約取引量は500tになり、JA大分宇佐およびJA安心院町における2001年の栽培面積は439haになった。その後イチバンボシの希少性が低下したため、その生産奨励を中止し、サヌキハダカを奨励するようになった。農家はサヌキハダカの契約取引量を達成するためイチバンボシからの転換を行い、2002年の栽培面積はイチバンボシが410ha、サヌキハダカが160haになっている。

## 3. 焼酎原料用大麦への取り組み

大分県宇佐市に本社のある三和酒類株式会社は麦焼酎用の品種について、大分県農業技術センター、大分県工業試験場（現大分県産業科学技術センター）を構成メンバーとした共同研究を行い、ニシノホシに注目した。そこでJA大分宇佐およびJA安心院町において、1998年から契約栽培が始まり、2002年の栽培面積は430haになっている。また三和酒類は1等40円/kg、2等30円/kgの生産奨励金をだしている。

## 4. パン用小麦の取り組み

JAにじは、麵用小麦の需要が限界にあり、今後はパン用小麦が有望であるという認識があった。そこでニシ

ノカオリの栽培に2000年から取り組み、2002年の栽培面積は23.1haになっている。生産されたニシノカオリは、等外以外は鳥越製粉が1等の価格で購入するという契約条件になっている。ただし、価格は銘柄区分Ⅲ（その他）になるため、農家にとって収益性は低い。

佐賀市では、2000年から学校給食用に国産小麦を用いることを検討し、2002年にはニシノカオリ4.4haの契約栽培を行った。農家に対しては、収益性（収量および単価）の低下および生産奨励のため2万円/10aの奨励金をだしている。

大分県三重町では、タンパク質含量が高いニシノカオリが醤油醸造特性を持つとして10haの試験栽培を行っている。価格については、大分醤油が農林61号の価格で購入する契約になっている。

## 5. 新品種定着の条件

麦作経営が新品種を導入する動機には、収益性が既存の品種に比べて高いこと、先駆者として取り組むことで先駆者利益を得ること、産地維持のため実需ニーズに対応することがあった。

このような動機のなかで収益性の影響は大きい。しかし現在の麦作制度のもとでは、実需者による評価が農家の収益性に反映するまでには数年を要するため新品種を先駆的に導入するにはリスクが大きい。したがって、実需者との連携による生産奨励金が農家の所得面で重要な役割をはたしていた。それを推定すると第1表のようになる。

また、実需者にとっては、国産麦は外国産と同等かそれ以下の価格で入手することができる。そのため国産麦により良質な製品や差別化商品を開発できれば、国産麦の利用が有利になる可能性がある。

制度上の課題として、実需者と産地が連携した麦作振興を図ることが重要になっているが、そのための契約栽培は民間流通にはならないことがある。

第1表 新品種導入に対する粗収益の推定

	農林61号		チクゴイズミ		ニシノカオリ		ニシノホシ		イチバンボシ		サヌキハダカ	
	1等	2等	1等	2等	1等	2等	1等	2等	1等	2等	1等	2等
指標価格	2117	1757	2014	1654	2117	1757	1540	1240	2197	1837	2232	1872
麦作経営安定資金	6886	6172	6396	5681	6152	5432	4524	3928	7305	6591	6555	5841
契約生産奨励金	600		450		150		120		600		150	
民間流通定着・品質向上支援対策	150		150		150		150		150		150	
三和酒類からの奨励金							2000	1500				
大分みそからの奨励金											2400	2400
合計	9753	7929	9010	7335	8569	7189	8334	6668	10252	8428	11487	10113
単収 (kg/10a)	310	310	330	330	270	270	330	330	330	330	270	270
収益 (円/10a)	50391	40967	49555	40343	38561	32351	55004	44009	56386	46354	51692	45509

- 注) a) 小麦やはだか麦は60kgベースで、大麦（ニシノホシ）は50kgベース。  
 b) ニシノカオリは醤油用として試算した。醤油メーカーは、ニシノカオリを農林61号と同じ価格で買い取るとした。しかし政府買入価格の銘柄区分がⅢなので、麦作経営安定資金はCランクとなり助成額が低い。  
 c) サヌキハダカの収量は通常の裸麦に比べて低い。  
 d) 三和酒類からの奨励金は、1等が40円/kg、2等が30円/kgである。  
 e) 大分みそからの奨励金は40円/kgである。  
 f) 農林61号、チクゴイズミ、ニシノカオリの収量は、2001年におけるJAにじの品種別収量を参考にした。農林61号は308kg/10a、チクゴイズミは334kg/10a、ニシノカオリは271kg/60kgであった。  
 g) 2000年産の作物統計の10a当たり平均収量（大分）は、小麦321kg、はだか麦324kgである。二条大麦の福岡および佐賀は、338kgと346kgである。  
 h) 「2003年産麦作推進パンフレット」大分県、および「1等麦の収入の比較」宇佐両院地方振興局農業振興普及センター資料から一部引用。